

北海道教育大学旭川校・北海道ラグビーフットボール協会連携  
令和6年度第2回ラグラグビーティーチャー研修会

令和6年6月20日（木）に標記研修会を開催しました。

先週に引き続き、今期2回目の北海道教育大学旭川校との連携事業でした。

今回は、エドゥケーター1名とアシスタント2名で運営し、受講者人数も前回の2/3程度となったのでスムーズな展開となりました。

今回の受講者は、「初等体育」履修者37名です。「体育コース」専攻の学生が11名含まれていたので、高い運動能力を発揮してくれました。中には、鋭いステップやダミーパス、クロスダミーパスなどを駆使したレベルの高いプレーを見せてくれる受講者もいました。

今回のポイントは、新学習指導要領の柱の一つである、「主体的・対話的で深い学び」をラグラグビーの授業の中で活用する視点を持って取り組みました。

この視点は、体育の授業を進める上で欠かせないものになります。

○「主体的」積極性を促す声かけ

○「対話的」コツや上達のポイント等の共有

○「深い学び」協働・交流を通して新たな気づきや協働による運動の楽しさの深化

①ラグラグビーの学習指導要領における位置づけ ②ラグラグビーの教材としての有効性 ③体育授業の進め方・組み立て方 ④ラグラグビーの授業を成立させる環境整備等について解説しました。

「導入」では、グルーピング・ゲームでチームビルドとウォーミングアップ、心と体の準備を進め、「タグ及びタグベルト着用のポイント」の解説とともに、「タグコール」の実践です。発声の有効性を実感してもらいました。

「展開1」では、①タグに慣れよう！：「タグ取りコンテスト」、②ボールに慣れよう！：「パスナンバーコンテスト」、③ボール・ハンドリング：「グリッド・パスナンバー」をベースに、「コーリング」「動き続ける」「スペース・ランニング」等の要素を組み込み、段階を追って、ラグラグビーの要素を積み重ねていく内容としました。

「展開2」では、対人スキル（1対1・2対1・3対2）で進め、連続プレーにつながるよう、段階毎のスキル解説を含めました。特に、ラグラグビーの「自己犠牲」の精神にもとづく、種目特性に注目し、連続プレーにつなげることを重視しました。加えて、「ナイス、タグ！」「ナイス、トライ！」の声で大きく盛り上がるできていました。

「まとめ」では、「4対4」のミニ・ゲームの後に、体育館全面を使用した「5対5」のモデル・ゲームを行い終了しました。

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| ラグラグビーエドゥケーター    | 山内 宣明（道協会コーチ委員長） |
| 同エドゥケーター(アシスタント) | 踊場 稔洋（同 コーチ副委員長） |
| 同アシスタント          | 踊場 洋平（同 コーチ委員）   |

